商品・トレンド

宿泊市場に特化したランドリー

wash—plus

東京ベイ潮見プリンスホテルが導入

JR潮見駅徒歩約1分、有名テーマパークのある同舞浜駅までは京葉線直通で3駅9分、東京駅も7分で到着できる好アクセスで評判のベイエリアにたたずむアート感満載の東京ベイ潮見プリンスホテル（東京都江東区）は、今年9月に誕生から5年を迎える。

宿泊者専用の大浴場や、フィットネスルームを完備し、短期滞在から長期滞在まで幅広く対応することに加えて、平面駐車場を完備するなど、施設面の充実を図っている。

さらには、ジャパニーズフレンチスタイルの洗練されたダイニングなど、ホテルステイを五感で楽しめる点もポイント。「水辺の宿場町」をデザインコンセプトに、海や江戸文化を感じるアートやインテリアで彩られた空間と、心と体を癒やすくつろぎのひとときが、宿泊客からの支持を集めている。

その同ホテルでは、一昨年11月のランドリールームのリニューアルおよび、急増するインバウンドのニーズに対応することを目的に、洗剤の代わりに99・9%水のアルカリイオン電解水で汚れを除去する特許技術を搭載したコインランドリー「wash+」シリーズの開発・販売を手掛けるwash—plus（ウォッシュプラス、千葉県浦安市）が提供する宿泊市場に特化した仕様のコインランドリー「wash+Comfort」を導入している。

このモデルは、省スペースに設置ができる小型の業務用機種をベースに開発され、100ボルト電源で対応し、乾燥機は乾燥時間が短縮できる三相200ボルト電源まで対処する。

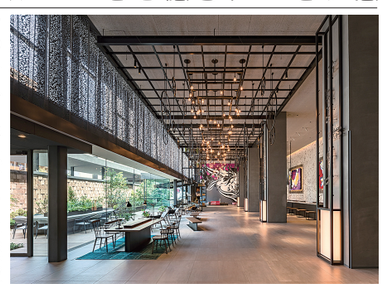
また、洗濯機と乾燥機が分離された設計が特徴で、洗濯のみの場合、最短20分で完結することから、少ない設置台数でも稼働が占有されるという業務改善が課題だった。洗濯機・乾燥機をそれぞれ5台ずつ設置したことでその懸念を払拭。同時に、タッチパネルで英語や韓国語など多言語対応し、各種クレジットカードやQRコード、中国系決済といったキャッシュレスも可能で、利便性に優れた点も宿泊客から好評を博す」とセールス&マーケティング部の安齋明子氏。

併せて、「万が一の故障時にもコールセンターで対応するため、業務の生産性の向上に貢献する点も評価できる」と安斎氏。

「今後は、例えば一定時間引き取りがない場合に管理者に通知が届いたら便利だと思う。引き続きアップデートしていってほしい。当ホテルになくてはならない存在」と力説する。

この件についての問い合わせ先はwash—plus☎047(3252)3985。

wash+Comfort


東京ベイ潮見プリンスホテルのロビー

機会損失を抑制し、施設の収益確保に貢献するという。

「元々は洗濯機と乾燥機の一体型を採用していたが、回転率が悪く、業務改善が課題だった。

鉄印帳と能登半島の農畜産物をセットに

旅行読売など数量限定発売

読売新聞大阪本社、旅行読売出版社は、WEBアプリ「鉄印帳デジタル」上で、のと鉄道特製デジタル鉄印と能登地域の農畜産物のセット商品を数量限定で1月29日に発売した。能登半島地震の復興応援企画。

鉄印は第三セクター鉄道等協議会に加盟する鉄道会社が発行する御朱印の鉄道版で、デジタル鉄印はそのデジタル版。

今回、のと鉄道沿線の風景写真を使った特製のデジタル鉄印と、能登牛、「石川県産こしひかり一粒のきらめき」など能登の農畜産物をセットにして販売する。農畜産物は全国農業協同組合連合会石川県本部（JA全農いしかわ）を通じて提供されるもの。

デジタル鉄印の売り上げは、のと鉄道の収入となる。

同鉄道は能登半島地震の影響を大きく受けたが昨年4月6日に全線で営業再開。「がんばろう能登」のヘッドマークを掲げ、地域の足として活躍している。

セットは3種類で、能登牛セットが1万3200円、こしひかりセットが7500円、能登地域の農産物加工品6種詰め合わせセットが6600円。それぞれ限定10セット、合計30セットの販売。

竹内美樹の口福（こうふく）のおすそわけ 540

秘密の農場レストラン ～その1～

先日「会員制・住所非公開」というレストランにご招待いただいた。「WATF secret farm」というそのお店、自社農場で育てた野菜がメインと聞いていたが、想像をはるかに超える内容にビックリ！

野菜自体のクオリティの高さはモチロンのこと、野菜それぞれに合った調理法で提供されるお料理のおいしさは格別♪

シェフ自らお料理をサーブして下さるのだが、そのつどどんな野菜でどんな特徴があるのかなど説明していただけるから、より一層おいしさが増す。全野菜自分たちで作っていますとおっしゃったシェフの古森啓介（こもりけいすけ）氏、実は都内に6店舗を構える、次世代型オーガニックレストラン「WE ARE THE FARM」を運営する株式会社ALL FARMの代表取締役でもある。なるほど、WATFは店名の頭文字だったのだ。

「WE ARE THE FARM」の公式サイトには、「自分たちの手で畑を耕し、無農薬・無化学肥料・露地栽培にこだわって、手塩にかけて育てた『固定種』野菜を主役に、素材の味を最大限に引き出すシンプルな調理法で最高の一皿をご提供するのがわたしたちのスタイル」とコンセプトが掲げられている。

2013年、千葉県佐倉市に畑を借りて自社農園「在来農場」をスタートさせ、14年に東京で開業した同店。その進化形「非公開会員制レストラン」がWATFなのだ。

前置きが長くなったが、このプライベートでラグジュアリーな空間でいただいた野菜料理の数々をご紹介しよう。まずはケールのサラダ。「KALE FARM」というケールのコールドプレスジュースのブランドを展開する、同社の顔とも言える野菜だ。古森氏によると、ケールは10種類もあり、生食に適したタイプや青汁に適したタイプなどさまざまあるそう。冬の寒さで肉厚になっている今、炭火でサッと焼いたケールの歯応えを楽しんでもらいたいとのこと。シンプルな味付けを施されたケールは確かにかみ応えがある。だが想像していたよりずっと苦味がなく、むしろ甘味さえ感じる。かめばかむほどうまみも出てくる。

続いて、白菜のサラダ。半分に割った状態を見せていただいたが、ギッシリ葉が詰まっていた。松島純二号という固定種だ。オーガニックで白菜を作れるようになるまは、毎年出来の良いモノの種を採ることを繰り返してきた性質を固定した野菜のこと。野菜本来の個性が強く、味が濃くて美味だが成長速度もサイズもバラバラだ。そこで登場したのが「F1種」と呼ばれる交配種。育てやすく、効率良く大量生産ができるように、規格に沿って改良された一代限りの品種である。現在流通している野菜の多くがこのF1種だという。

当日の朝採ったばかりの野菜たち。3品目は衝撃の菊芋！ 一体どんなお料理なのか？ 続きは次号で♪

※宿泊料飲施設ジャーナリスト。数多くの取材経験を生かし、旅館・ホテル、レストランのプロデュースやメニュー開発、ホスピタリティ研修なども手掛ける。

生ビールリニューアル

サントリー〝飲みごたえ〟を進化

サントリーは昨年12月下旬から順次、「サントリー生ビール」を全国でリニューアル新発売している=写真。魅力をさらに向上させるべく、中身やパッケージを刷新した。

中身については、ダイヤモンド麦芽の特長をこれまで以上に引き出す仕込み条件を見いだすことで、〝グッとくる飲みごたえと飲みやすさ〟を進化。「生ビールの味わいをさらに感じていただける『カラダに染みわたるようなうまさ』を目指した」という。

パッケージは飲食店で飲むおいしい生ビールをより想起してもらおうと、「生」の訴求をさらに強調した。

24年の販売数量は、年間計画の600万ケースを突破している。

全般的なウィルス対策に!
全般的なウィルス対策には、飛沫感染対策とともに空気感染対策が必要です。
のろ対策にも そなえあれば憂いなし
Dr.ノベ3S
発売から14周年!
キレイな環境（ところ）に人が集まる
空間除菌
90日間効果長持ち
おかげさまで30周年
■東京都ホテル旅館組合指定商社
■日本温泉協会正会員
■全日本ホテル連盟賛助会員
システム・シャイン・サービス(株)
〒171-0052 東京都豊島区南長崎6-8-10
TEL.03-5996-5407
http://www.3s-group.co.jp

本だな

数字とファクトから読み解く 地方移住プロモーション

伊藤将人著

筆者によると、2010年代半ばの地方創生以降、国と自治体が一体となって大都市、特に東京圏からそれ以外の地域への移住を政策的に増やそうと試みる移住促進施策が加速拡大した。しかし現在、移住促進を巡ってはさまざまなトラブルも顕在化しつつある。

「競争や流行にとらわれず、まちに本当に必要な移住者と出会うためには何が重要だろうか」と投げかける。

本書は「フェアで持続可能な移住促進」という視点を軸に据え、移住をめぐる研究結果や統計調査などさまざまなファクトを紹介。30を超えるトピックに分け、行政・事業者・地域が直面する課題や葛藤を乗り越えるアイデアを提示している。

「移住へのキッカケとしてやっぱり重要な観光経験」「移住者=Iターンという構図で失っている層」「コロナ禍が地方移住に与えた3つの影響」など、興味深い項目が並び、移住とは何かが理解できる。

四六版240ページ。定価=税込み2640円。発行・学芸出版社。

WEBマーケティング

WEB集客最前線（AIエージェントの衝撃）

徹底集客 第346回

インターネット

2025年になりAIかいわいの動きが活発だ。特にChatGPTでAI革命の旗手となったOpenAIの動きが活発だ。直近でも、トランプ大統領、サム・アルトマンCEO、ソフトバンクグループの孫正義会長を中心にAI関連のニュースが報道されない日はない。

その中で特に話題の中心となっているのが、「AIエージェント」である。AIエージェントはAI革命の本丸といわれているので、ぜひ情報をキャッチアップしておいてほしい。

AIエージェントとは「自律的に、継続的に学習しながらタスクをこなすAI」なのであるが、もう少し端的に言うと「超優秀な部下」というイメージであろうか。

優秀な部下に対して、例えば「この商品を100個売りたいのだが」と伝えると、①「その商品の特性を理解し」②「その商品のニーズがありそうな顧客をピックアップし」③「刺さりそうなメールの案内文面を作成し」④「アポ取りを開始する」という一連の流れを言われなくても実施する。この①～④を自動的に行うAIというイメージである。

具体的にはOpen AIの「Operator」というモデルがそれにあたる（現時点では米国のみ提供。まもなく日本にも提供予定）のだが、発表動画を見てほしい。AIが自律的にWebを検索する様子は衝撃的である。

もちろん、まだまだ誕生したばかりなので、すぐには実用的に使えるかは不透明である。

しかし、思い出してみてほしい。ChatGPTは一般公開からわずか2年で、さまざまな分野で人間の知能を超える結果を出しつつある。

このAIエージェントはパッと思いつくだけでも、とてつもない可能性を秘めている。例えば、電話の1次受けは人間である必要がなくなるであろう。または先ほどの事例のように営業のアポ取りも、もはや人間がやる必要はなくなるであろう（すでに、そのような製品は生まれている）。

多くの識者が今年は「AIエージェント元年」になると唱えている。2年前にChatGPTに少し触った以来という方がいれば、ぜひ、再びAIに触れてほしい。それだけでも驚くべき進化を感じるはずである。

（株式会社アビリブ・株式会社プライムコンセプト 内藤英賢）

＝隔週掲載

あなたの「地域の宝」を見つけよう　日本で唯一の専門講座
アドベンチャーツーリズム・アカデミー
Adventure Tourism Academy
25年度 4月・10月 開講
今、インバウンド旅行者の関心が、日本のアドベンチャーツーリズムへ向かっています。本アカデミーでは、深い知見を持つ専門家・講師陣のレクチャーにより、価値ある体験を創出し地域の魅力を最大限に引き出すことのできるコーディネイターの育成を目指します。
こんな方におすすめ!
● インバウンド誘致での地域振興を検討している自治体・DMO・旅行会社・ランドオペレーターの職員など
● ビジネスとしてアドベンチャーツーリズムに取り組みたい方
アドベンチャーツーリズム・アカデミーの5つの特徴
① 各分野の専門家による講座
② いつでもアクセス可能なオンライン講座
③ 持続可能な観光地域づくりの学習
④ 先進地域での実践的フィールドワーク
⑤ 関係者の全国ネットワーク展開形成
第1期卒業生の声
全13回にわたり大変素晴らしい内容で、とても勉強になりました。ありがとうございました。
とても学びと発見と振り返りが多い講座でした。貴重な機会をいただき、心から感謝しています。
開催概要
● 開催時期：【オンライン講座】約3か月を1クールとし、週1回、合計13回を目安として実施します。
【フィールド研修】オンライン講座終了後にアドベンチャーツーリズム先進地域にて3日間のフィールド研修を実施します。
（別料金）※オンライン講座終了後、受講者の所在地域におけるアドベンチャーツーリズム推進にむけたロードマップを作成し、専門家よりアドバイスをもらいます。ロードマップの提出後、修了証を発行します。
● 参加人数：1クール20名（フィールド研修は10名程度となります。）
● 参加費用：【オンライン講座】280,000円〈税抜〉（日本アドベンチャーツーリズム協議会会員 230,000円〈税抜〉）
※フィールド研修の参加料金については別途ご案内します。
● 参加方法：右記 QR コードからオンラインでお申し込みください。または、Web サイトより申込用紙をダウンロードいただき、PDF ファイルにて、下記あてにメール送信をお願いします。
● お申込・お問合せ先：アドベンチャーツーリズム・アカデミー事務局
電話：080-2299-2154　担当：出口　メールアドレス：academy@atjapan.org
講座名と講師略歴
講座名 世界に選ばれるデスティネーションの考え方と求められるATリーダー人材
山下 真輝氏 （一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会理事 JTB総合研究所 主席研究員、内閣府地域活性化伝道師
全国各地の観光振興に関わるプランニング・調査研究・旅行商品開発に従事。近年はスポーツツーリズム、ATの調査研究を行う。2014年より内閣府地域活性化伝道師として全国の観光振興政策を支援している。
講座名 世界のツーリズム動向とAT市場への期待
亀山 秀一氏 JTB総合研究所 主席研究員
1988年運輸省（現国土交通省）入省。国土交通省観光庁国際交流推進課長、国連世界観光機関（UN Tourism）、JNTO理事長代理など、12年にわたり観光関係業務に従事。2021年国土交通省を退職後、2024年よりJTB総研主席研究員を務める。
講座名 外国人旅行者が求める高付加価値体験としてのAT
高田 健右氏 （一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会 Global Marketing Director/ATTA Ambassador
メルボルンの Holmesglen Technical and Further Education Chadstone校で国際ビジネス学位を取得後、外国人客対応や、大小の会合、会議での英語を用いた司会プレゼンテーションなどを行う。2020年5月からATTAのAmbassadorに就任。
講座名 世界のAT先進地域と日本のAT地域としての可能性
芹澤 健一氏 （一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会理事/アルパインツアーサービス株式会社 代表取締役社長
ガイドの教育、トレッキング・ハイキングコースの総合的プロデュースなどを行う。ニュージーランドのトレッキングの第一人者。アンデス・ロッキー、アラスカ、ネパール・ヒマラヤなどでは自然環境に配慮したロッジのプロデュース全般にも関わる。
講座名 持続可能な観光地域づくりに向けた官民連携のあり方とエコツーリズムの取組
木名瀬 佐奈枝氏 一般社団法人TESHI-COLOR 代表理事、弟子屈町サステナビリティ・コーディネーター
20年にわたって、北海道弟子屈町のアウトドア会社の経営に携わり、2020年に（一社）TESHI-COLORの代表理事に就任。2021年からは弟子屈町のサステナビリティコーディネーターとして、持続可能な観光地域づくりに取り組んでいる。
講座名 世界のサステナブルツーリズムの動向とこれからの受入地域のあり方
熊田 順一氏 JTB総合研究所 主席研究員
訪日インバウンド事業で実践経験を積み、2014年から国連世界観光機関において日本人初の職員として勤務。SDGsと観光の研究を開始、その後、JTB総合研究所において同研究を継続。内閣府においてSDGs達成に貢献する観光分科会を主宰。
講座名 地元住民主導の観光地域づくりと高付加価値体験のあり方
内山 裕紀子氏 くまの体験企画 代表
2002年、三重県尾鷲市へUターン後、くまの体験企画を設立。総務省ふるさとづくり大賞個人表彰を受賞。日本インタープリテーション協会ITS33修了などを経て、日本エコツーリズム協会エコツアーガイド養成講習修了し、NACS-J自然観察指導員を務める。
講座名 メディアとの共創:地域の魅力を最大化するコミュニケーション戦略
岡本 岳大氏 wondertrunk & co.代表取締役共同CEO、デスティネーションプロデューサー
日本の地方を世界のデスティネーションにすることを目標に、ワンダートランク アンド カンパニーを設立し、デスティネーション・プロデュース事業を展開。観光庁「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」アドバイザーとしても活躍。
講座名 ① 持続的な集客にむけた顧客マーケティング手法 ② 地域における安全対策・危機管理による品質管理の考え方
マイケル・ジョン・ハリス氏 （一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会理事/株式会社 キャニオンズ チーフリフレッシング オフィサー
ニュージーランド出身。日本で最初にキャニオニングをツアーとして確立。スノーキャニオニングの立案者。長年の経験と多岐に亘る豊富なアウトドアスキルとカリスマ性で日本のAT業界を牽引。"世界をリフレッシュする"をミッションとして活動中。
講座名 地域に眠るストーリーの活用法とアクティビティ運営のマーケティング手法
石飛 聡司氏 （株）mint 代表取締役
広島県出身。市内を周遊するサイクリングガイドツアー sokoiko! を 2017 年より開始。地域のストーリーをツアー化し、TripAdvisor で 2019 年より 4 年連続でアワード受賞。県内外で観光企画やツアー造成、ガイド育成事業に携わる。
講座名 ATGSに基づく高品質ガイドの育成と地域ブランドの強化
横堀 勇氏 WMAJ共同代表理事 WMAIインストラクター WEMT/アウトドアガイド
カナダで環境学を学び、ロッキー山脈で山岳技術や救急法をマスター。その後カナダでガイド資格を取得後、WMAインストラクターとして災害救急法の普及に尽力する。さらに医療資格も取得し、現在日本国内で外国人対象のガイドとして活動中。
講座名 事故事例から学ぶ危機管理
早川 修氏 早川総合法律事務所 弁護士
弁護士。さまざまな省庁で自然のなかでの活動における安全に関する役職を歴任。2003年のリバーラフティング転覆事故を契機に、リスクマネジメントの研修活動を展開。アウトドアの第一人者として、安全意識の向上に貢献。
※ 講座名は予定されたタイトルであり、変更となる場合があります。 ※ 講師と内容は変更となる場合があります。
ATA Web サイトはこちら
お申込みフォームはこちら
アドベンチャーツーリズム・アカデミー
一般社団法人 日本アドベンチャーツーリズム協議会